

平成 26 年度第 2 回 長野市廃棄物減量等推進審議会 議事録【要旨】

【開催概要】

開催日時：平成 26 年 11 月 17 日（月）9 時 10 分～11 時 10 分
開催場所：長野市役所第一庁舎 8 階 第一委員会室

【次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境部長あいさつ
- 4 議 事
(1) 専門部会における審議結果報告
(2) 答申（案）について
- 5 その他
- 6 閉 会

【会議資料】

- ・長野市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて（諮問）写
- ・資料 1 一般廃棄物処理基本計画中間見直し専門部会における審議経過及び報告について
- ・別紙 1 ごみ処理基本計画
- ・別紙 2 生活排水処理基本計画
- 【以下、参考資料 1～5 は専門部会で提示した資料】
- ・参考資料 1 ごみ処理基本計画の見直し（案）について
- ・参考資料 2 ごみ処理基本計画の施策見直し（案）について
- ・参考資料 3 ごみ処理基本計画 新施策体系（案）
- ・参考資料 4 ごみ処理基本計画の成果指標（案）について
- ・参考資料 5 生活排水処理基本計画の見直し（案）について

- ・長野市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて（答申）（案）
- ・ごみ量の状況

【出席委員】 13 名

【欠席委員】 2 名

【事務局】 11 名

【報道・傍聴者】 0 名

【会議内容(要旨)】

1 開 会

◇会議の成立と公開について報告（事務局）

2 会長あいさつ

寒い中、また早朝よりお集まりいただき感謝申し上げます。

平成 26 年度第 1 回目の審議会で諮問があった、一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて、

3回にわたり専門部会で審議した。本日は専門部会における審議結果を踏まえて、答申をまとめたい。活発なご審議をお願いする。(副会長)

3 環境部長あいさつ

ご多忙の中、また早朝よりご出席いただき感謝申し上げます。また、専門部会の委員さんには3回にわたり熱心な審議をいただき感謝申し上げます。

6月2日に開催した本年度第1回目の審議会で諮問を申し上げた、一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて、専門部会における審議結果を踏まえて改めて審議いただき、最終的な答申をまとめていただきたい。幅広いご見識から、ご意見ご指導を賜りますようお願いする。(環境部長)

4 議事

(1) 専門部会における審議結果報告

◇資料1「一般廃棄物処理基本計画中間見直し専門部会における審議経過及び報告について」により報告(部会長)

◇別紙1「ごみ処理基本計画」及び別紙2「生活排水処理基本計画」により説明(事務局)

<以下、質疑応答>

(委員) 来年は善光寺の御開帳や新幹線の延伸があるが、基本計画に影響を与えないのか。

(事務局) 基本計画に直接影響しないが、毎年定めている実施計画で触れ、対応したい。

善光寺の御開帳について、前回の家庭ごみ収集は、善光寺のお朝事があることから周辺の区と相談させていただき、夜間収集を行った。また、事業系についても、該当地区の事業者の皆さんに協力をいただき、夜間収集を行っていただいた。現在、家庭系については関係する周辺の区長、また、事業系については実行委員会や商工会議所を通じて、ごみの収集の対応を検討しているところである。

(2) 答申(案)について

◇「長野市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて(答申案)」により説明(事務局)

(会長) ご質問・ご意見が無いため、以上の内容をもって本審議会としての答申としたい。

答申については、会長・副会長で長野市に申し上げる。

以上で本日予定していた議事は終了する。円滑な議事の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。

5 その他

◇「ごみ量の状況」により説明(事務局)

<以下、質疑応答>

(委員) 前期と後期を比べると前期のごみ量が多いことから、今回提示したのか。

(事務局) 後期は毎年少ない量だが、前期も減少傾向が続いている。

- (委員) 2月は大雪、6月の梅雨時は野菜が関係している。有料化前後の比較では、剪定枝葉の分別も始めたことが減量の要因と考えられる。家庭ごみについて、これ以上の減量は厳しいというラインなのか。また、畑を所有している人達の野菜くずは、堆肥化している人もいれば、可燃ごみとして排出している方もいるのではないかな。可燃ごみとして排出している方には、啓発をしていかななくてはいけない。
- (事務局) 剪定枝葉も含めた値である。専門部会でも報告したが、新聞・雑誌離れが影響し、紙類の量が非常に減ってきている。その一方で、資源化率は良い推移をしている。このまま維持していくことが望ましい。市民の減量・分別意識の高さは、他自治体と比べて良い。中核市の中で、資源化率は41市中3位、ごみ量は41市中11位であり上位を維持していただいているが、これ以上の減量は難しいと感じることもある。しかし、資源化する上で、小型家電の分別収集や新たに進める施策について、期待をしている。
- (委員) 布類の資源化が可能になってきているため、分別収集を行えば可燃ごみが減るのではないかな。今、布類を回収している集団資源回収団体が少ないため、行政回収を行うことによって排出回数や排出場所の拡大を図り、排出機会が増えれば可燃ごみ量は減っていくと感じる。
- (事務局) 行政回収の分別に布類はない。集団資源回収の登録団体へ、布類の回収を増やしていただくようお願いし、回収量は増えてきている。
長野市内の処理施設の状況は、資源化ルートが整っていない実態がある。海外へ輸出する場合でも、服の形状や状態の検査が非常に厳しい。工場で使用するウエスについては、事業所の経済活動がもっと活発にならないと、ニーズが少なくなってしまう。行政回収を行っても捌けるかどうか心許ない状況である。ご指摘いただいたことは十分感じており、市内で受入できる体制をお願いすると共に、まずは集団資源回収の中で拡大していきたい。状況によっては、何らかの形で布類の回収をすることを考えていく必要がある。
- (事務局) 集団資源回収で行っている布類の回収量は、平成23年度が46トン、平成25年度が83トンである。今年度4月から10月までの7ヶ月間で76トンである。毎年若干ではあるが増加しており、本年度は100トンを超えると見込んでいる。紙類の回収量が減少している点を補うため、布類を回収する団体数も増えてきている。
- (事務局) 量的には非常に少ない。全体量と比較すると100トンしかない。資源化ルートの確保が難しい状況のため、もう少し良い流れで捌けると良い。
- (会長) 平成23年度から平成25年度の家系系一人一日あたりは、ほぼ一緒である。しかし、今年度になって減っているため、消費税の増税と景気が悪くなってきていることが、要因ではないかと考える。そのため、安心できないのではないかな。
- (事務局) 消費税の増税や景気の悪化も大きく影響しているが、分析結果によると、紙類の減量である。可燃ごみも減り減量化が進んでいるが、大幅な減の要因は、紙類の減少である。
- (会長) 3年程横ばいで今年度は急に減少している。そのため、消費税の増税と景気の悪化が要因ではないかと感じた。
- (委員) 同じことを感じており、景気が良くなってきた時は、増える要因になると感じている。
古紙の回収に当たって、回収業者から段ボールの定義を示されたが、市は承知しているか。中に波形の中芯があるものが段ボールであると示されているため、集団資源回収での分別が、面倒に感じる。厚紙と一緒にしてはいけない理由があるのか。
- (事務局) 厚紙の中には、質の悪い古紙が入っている。それに対して段ボールは質の良い素材を使用して作られているため、紙類を資源化する立場からすると、きちんと分別してほしいという意向である。段ボールの定義について市には情報が入っていない

ため、業者から入手したい。

(事務局) 資源化業者の聞き取り調査では、新聞紙が一番高い価格だったが、最近はやボールのほうが高くなっていると聞いている。段ボールは様々な品質があり、品質の均一性を求めている。回収時点からある程度、良い段ボールと適さない段ボールを分別していただきたいのではないかと。分別しないと全体が品質が悪いものになってしまうため、ある程度の分別をお願いしているのではないかと。今後、業者に確認したい。

(委員) 家庭系可燃ごみが減量しており、色々な原因が考えられるといった中で、このチャンスを利用し、経済活動の中で「もったいない精神」を定着させ、ごみ排出量の抑制を更に進めてほしい。

(事務局) 専門部会の中でも、ごみ減量を過剰に進めることが本当に良いことなのか。物を大切にする、もったいないということ、ごみ減量をするがために勤めるのではなく、最後まで使うという発想の基でやるべきものである。減量するためにという目標になってしまえば、経済活動にも影響していくと指摘をいただいている。十分考え、また、ただ今いただいた指摘も踏まえて、今後の施策に反映させたい。

(委員) ごみが減ってきて良い傾向だと思っているが、施策によるものではなく、偶然減ったと感じている。事業系ごみを減らすために、様々な啓発をしてと記載してあるが、具体的にどのような啓発活動や呼びかけを行っているのか。

外国人が増えてきている。日本人が減りサービス業から製造業まで色々な方達が労働力として海外から来る。日本人のようにきちんと分別して生活するのは、世界でも珍しい。その中で全く違うモラルで育った人達と共存していく。同じ社会で生きていくために、特にごみについては何かしら考える準備をしていかないといけない。各国の人達に「もったいない」が分かってもらえるのか。ポイ捨てを普通に行っている国の人達が来たり、また、善光寺に御開帳や新幹線の延伸で人が集まる機会が増える。沢山の人数と同じルールを共有していくために、国際的なことを考えていかないといけない。

(事務局) 家庭系については、今まで地道に生ごみの減量を行ってきたことが一番である。分析結果から可燃ごみの4割が生ごみであり、生ごみの減量が定着してきていることが、大きな減量効果である。

分別不良で集積所に残り残されたごみを調べると、外国の方だというケースもある。意識を変えることは難しいため、地道に個別対応していきたい。また、国際室等と連携を図りながら、何かの機会を捉えて、啓発していく必要がある。

事業系については、今まで多量に排出する事業所をターゲットとしていたが、多量排出事業所以外の事業所についても実態を調べて直接啓発指導をしていく。飲食店等は排出量が多いため、個別に啓発指導することで、事業系はまだ減らせ、まだまだ分別できるのではないかと考える。今後、実施計画に具体的な計画を盛り込んでいきたい。

○本日の議事録は、事務局でまとめたものをお送りし、承認後に公開したい。簡単な日時や概要等をまとめた簡易的な開催結果と本日の資料は、別途ホームページで公開させていただく。

(事務局)

6 閉 会

(11時10分閉会)